

家庭菜園相談室

今月の
テーマ

新ショウガの新鮮な香り、 薬用として体を温める効果のあるショウガを 栽培しよう

血行を促進し、体を温める効果のあるショウガ。薬味や香味などに使われてきたほか、近年は冷え性に悩む女性を中心に人気を集めています。

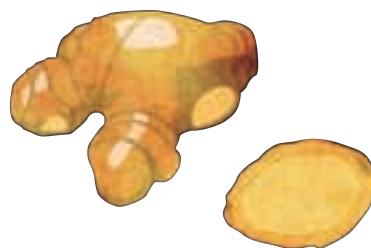


図1 作型目安

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月
根ショウガ	●	●	—	—	—	—	■ ■ ■ ■	■
葉ショウガ	●	●	—	■ ■ ■ ■	■ ■ ■ ■	■ ■ ■ ■	—	—

● 植付け ■ 収穫

栽培の ポイント

- 乾燥には弱い一方で、水はけが悪いと病気が出やすいので注意します。
- 日当たりは必要ですが強い光は嫌うので、適度な日影ができる場所が良いです。
- 連作障害を避けるために、同じ場所での作付けは2~3年栽培期間を空けるようにします。
- スーパーなどで売られているショウガは食用として管理されていますので、栽培用には適していません。

畑の準備： 植付けの2週間前に苦土石灰100g/㎡を施して深さ30cm位までよく耕し、1週間前には堆肥2t/㎡と化成肥料(8-8-8)100g/㎡を施してよく耕します。

栽植密度： 畝幅60~70cm、高さ10cm、株間20~30cm(1条植え)。植え付ける深さは、小ショウガなら深さ7cm、大ショウガなら10cmと品種によって変えます。

植付け： 大きな種ショウガは、あらかじめ40~60cmに分割し、切り口を乾かしておきます。種ショウガは、発泡スチロールなどのトロ箱に土を入れて、ビニールで覆い、暖かい場所で芽出しをしておく、植付け後の生育が早まります。植え付ける畝に深さ10cm程度の溝を掘り、種ショウガを畝に対して縦向きになるように、30~60cm間隔に芽が上向きになるように並べ、厚さ5~6cm土をかけます。

水やり： ショウガは乾燥に極端に弱いので、2~3日に1回を目安に水やりをします。特に梅雨明け後は水切れしやすいので、株元にわらを敷くと湿度を保てます。

追肥・土寄せ： ショウガの本葉が2~3枚出て、草丈が15cm程になったら化成肥料を30~50g/㎡施し、中耕・土寄せをします。1回目の土寄せ後、暑くなる7~8月頃までに敷きわらをします。敷きわらが手に入らないときは、刈り草や薄手のダンボールを敷くのも効果的です。1ヵ月後に2回目の追肥(化成肥料30~50g/㎡)を施し、中耕・土寄せをします。

病害虫防除： アワノメイガの幼虫が葉や新芽を食害するので、見つけ次第捕殺します。

収穫： <葉ショウガ>植付けから約3ヵ月後(葉が5~6枚の頃)のまだ根が小さく柔らかい状態で、株元が赤くなったら収穫の適期。7月上旬頃根茎が小指程度の大きさで、葉が付いたまま収穫します。
<根ショウガ(新ショウガ)>地上の茎葉が黄色くなり、枯れ始めたもので、十分根が肥大した状態のもの(茎の付け根が鮮やかな紅色)を収穫します。低温にあたると傷むので、霜が降る前までに収穫しましょう。

保存・貯蔵(土に埋める)： 20cmほど土を掘り下げて籾殻を敷き、ショウガ同士が触れ合わないよう横にして並べ、土を2cm以上被せます。さらにその上にショウガを並べ、土を被せることを繰り返します。最後に籾殻をかぶせたら、土を10cm以上盛り上げ、雨よけを兼ねてわらや落ち葉、枯草で覆います。ショウガの保管は13~15℃が適温です(保管温度が高いと芽が出て、低いと傷んでしまいます)。茎と葉は切り落とし、土がついたまま保管します(できるだけ切らずに塊のままが良いです)。乾燥にも弱いので湿度は高く保ちましょう。

家庭菜園に関する相談は、宮農経済センターのTAC(タック)までご連絡ください。